

(1)



伊都消防署便り

平成 26 年 3 月 1 日

編集と発行

伊都消防組合

伊都郡かつらぎ町

妙寺 126-12

TEL 0736-22-0119

第 3 8 号

安全 ・ 确实 ・ 迅速 ・ 愛 !



平成 2 5 年度更新車両
救助工作車



春季全国火災予防運動週間 (3月1日~3月7日)

全国統一標語

消すまでは 心の警報 ONのまま



つけたなら せきにんもって あとしまつ

平成 25 年度伊都消防組合防火標語 最優秀賞 大谷小学校 本城碧乙



伊都消防組合ホームページ <http://www.ito119.or.jp>

消防長挨拶



消防長
山高國央

「災害に強いまちを目指して」

皆様方には、平素から消防行政及び火災予防に御理解と御協力を賜り厚くお礼申しあげます。

消防は、住民の生命、身体、財産を火災等の災害から守り、安全で安心して暮せるまちづくりを目指すことが任務であります。

しかし、近年は毎年のように様々な自然災害により、各地で大きな被害が発生しております。特に、平成二十三年三月に発生した東日本大震災は、観測史上最大規模の地震であり、これまで経験したことのない巨大津波により、想像を絶する甚大な被害を被りました。また、昨年も集中豪雨や竜巻、台風等により大規模な災害が全国各地で発生しました。

近い将来発生が危惧されております東海、東南海、南海にわたる「南海トラフ」の巨大地震等に備え、消防力の強化を図るとも

に、市町村域の枠を超えた対応が必要とされております。

このような状況を踏まえ、従来の消防本部ごとに実施している消防通信指令業務を近隣の市町と共同で行うことにより、消防本部ごとの情報の共有が可能となり、また、複数の消防本部にまたがるような広範囲の災害にも迅速かつ的確な対応が図れるという観点から、橋本市及び高野町との消防通信指令業務の共同運用について協議を重ね、平成二十八年四月一日からの運用開始を目指して整備を進めております。

住民の皆様方におかれましては、も、いつ、どこで、何が起こっても不思議ではない災害に対して、「自分の命・家族の命」を守るための減災対策を行い、さらに、地域の自主防災力を高めることにより、被害の軽減を図っていただきたいと思えます。

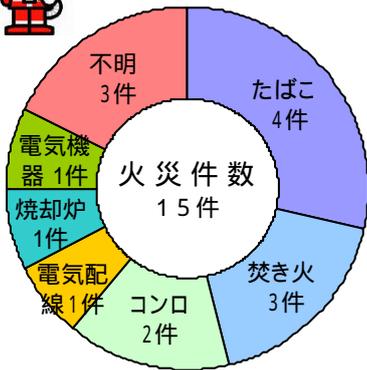
当消防本部といたしましては、消防団、関係機関等との連携を更に密にいたしまして、職員一丸となつて地域の安全・安心のため全力を傾注してまいります。どうか御協力のほどよろしくお願い申し上げますとともに、皆様方の今後ますますの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

消防白書(平成25年)

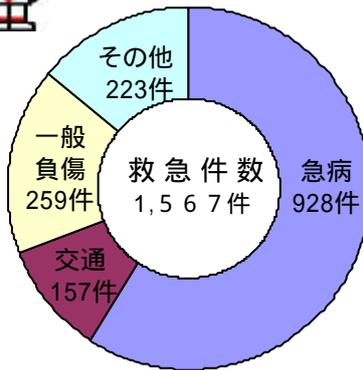
The saving of a Life



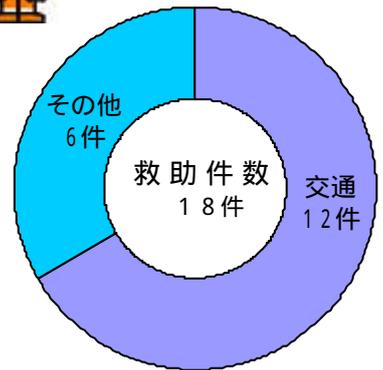
火災



救急



救助



市町別 災害別	かつらぎ町	橋本市高野口町	九度山町	管外	合計
救急	792件	548件	223件	4件	1,567件
火災	9件	2件	4件		15件
救助	11件	6件	1件		18件

感謝状贈呈

「勇敢な人命救助」を称え

箕面市 遠藤 英一様
摂津市 倉橋 昂志様

建物火災に気付いた二人は、消火器を持ち煙のある家の中に入り、老人を見つげ迅速に救出してくれました。

「火災の拡大を防止」

橋本市 森下 尚紀様
橋本市 寺田 昌仁様
橋本市 松岡 均 様
橋本市 松浦 慎二様
橋本市 天野 正和様
橋本市 坂井 隆夫様
紀の川市 山崎 乾男様
岩出市 松本 和久様
木造家屋が密集している地域において、消火栓からホースを延ばし、出火建物内部まで放水を行い初期の段階で火災を鎮圧してくれました。



Do not lose to yourself
私たちは、救命のため全力投球をします

救急救命士 下村清隆

平成24年9月6日、私は救急救命九州研修所に入校した。ここでは救急救命士になるために必要な知識や技術を約7か月間もの期間をかけて徹底的にたたきこまれるのである。九州各地の救命救急センターから集められた現役の救命医や西日本各地から集められた先輩救急救命士が教授・教官として我々の指導にあたってくれた。

ある教授は、自分自身の失敗談を惜しげもなく話してくれ、助けられなかった命の尊さを伝えて頂き、また、ある教官は、自分の不注意で失ってしまった「命」に対し、救急救命士の道を選んだ生き様を訴えてくれた。

しかし、ここで学んだのは、単に人の命を救うための知識やスキル、そして最新の情報だけではなく「命」というこの世で最も尊い存在に対し、徹底的に研究し追求し、熱く真剣に取り組み、時には鬼のように厳しく、時には温かく見守り、熱い気持ちだけで入校した私たちに「自信」という魔法の力を加えて下さり、厳しい救命現場へ赴く私たちを大切に育ててくれた。

そして昨年6月、私は救急救命士の資格を取得し、ある病院で気管挿管実習を受けていた。そこでは手術を受ける患者さんに対し医師の指導のもと実際に実習をさせていただき、後日、患者さんにお礼に何うのだが、どの方々も術後でしんどいにもかかわらず「私で役に立つのなら」とか「一人で

も多くの命を助けてくださいな」と、温かい言葉をかけてくれた。

そんな中、ある患者さんが術後の調子が悪く寝込んでいた。酸素マスクも外せず苦しそうで、対応していただいた家族からは丁寧にお礼を言っていたのだが、起してもだめだと思いい部屋を立ち去ろうとした時だった。「あ、救命士さん！母が！」と家族さんの声に振り向くと眠っていたはずのおばあちゃんが、点滴をされている手で、一生懸命に手を振ってくれていたのだ。「お母さん！救命士さん頑張ってくれて嬉しかったんやね！」との娘さんの言葉に、おばあちゃんはずなずいてくれた。私は最敬礼をしてその病室を出た後、もう涙は止まらなかった。

私は九州研修所のある教授から学んだ言葉を思い出した。「私達の現場にはいつも『助けた命』ではなく『助かった命』、そして、『助けられなかった命』がある。」今もこの言葉は、私の信念となっている。

私たち医療従事者の仕事は、助けたのではなく、助かるはずの命の灯が消えないよう、その手助けをしたにすぎない。私たちは、多くの方々に支えられ、協力していただきながら「救命」という仕事をさせていただいている。そんな多くの方々の心が、救急救命につながっているということに気づかされた言葉である。

実は今から約13年前、私は訳あって、一度救急救命士の道を諦めている。しかし、縁あって再びこの道を目指すことができた。「救急救命」私はこの道を天命と信じ、今度は諦めず、これからも挑戦を続けたい。

平成 25 年度 防火標語・ポスター入賞作品



信太

三浦悠加 (信太)



阿瀬健斗 (高野口) 南城あゆみ (高野口)



高野口



応其



西岡なつほ (応其) 塩山奈后美 (応其)



少年期から防火に対する知識を身につけ、家庭及び学校生活において火災予防の徹底を図ることを目的として、管内の各小学校4年生を対象に防火ポスター、5年生を対象に防火標語を募集したところ、多数の応募をいただきました。

大谷



宮崎琢巳 (大谷)

特選・優秀作品



岸田美紗希 (妙寺)



岡本奈央 (妙寺)



上西好鈴 (妙寺)

妙寺



山本琉心 (笠田)



田中 響 (笠田)

笠田



三浦雅志 (九度山)



福本 光 (九度山)



藤澤 希 (九度山)



石本美織 (九度山)

九度山



入選・優良作品



東岡歩果(妙寺)



中崎上嵐(妙寺)



田口京季(妙寺)



木村優花(渋田)



丹田百香(渋田)



浦藪千穂(妙寺)



田中誠人(妙寺)



市道間桜(河根)



宇野 心(大谷)



山下志紀(笠田)



藤田隼偵(応其)



平田咲彩(信太)



西野秀晃(高野口)



坂口奏夢(応其)



池畠怜奈(高野口)

最優秀賞

つけたなら せきにんもって あとしまつ

大谷小学校

本城 碧乙

優秀賞

思い出を 燃やさぬように 火のしまつ

妙寺小学校

村岡 英哉

おでかけの 前に家族と 火の確認

大谷小学校

坂本 廉心

つけたなら 忘れないでね 火のしまつ

笠田小学校

上田 祥子

火事防止 出かける前の 再確認

応其小学校

加勢田 理瑚

消したよね その思いこみ 火事のもと

高野口小学校

木村 真綸

消したかな たしかめるなら 今でしょう

高野口小学校

松本 天良

つけた火を 消すまで離すな 目と心

九度山小学校

海堀 佑介

火の用心 言ってるだけじゃ 始まらない

河根小学校

奥田 臣

見直そう どこかにあるよ 火事のもと

信太小学校

裕 大祐

くりかえす 点検かくにん 火事防く

妙寺小学校

山陰 亜美

火の用心 ついたら消すが 合い言葉

九度山小学校

野中 亮甫

幸せが 火事といつしよに 消えていく

九度山小学校

平岡 祐汰

火のしまつ せきにんもって やりきろう

妙寺小学校

平原 怜於

消し忘れ 家を出るまえ 二度かくにん

笠田小学校

草田 祐衣

消し忘れ 気付いたときには もう遅い

洪田小学校

中野 颯斗

声出して 安全確かめ 出かけよう

妙寺小学校

坂口 遥南

あぶないよ 幸せなくす こわい火事

妙寺小学校

中北 結愛

つけようよ 火災ほうちき ぜつたいに

妙寺小学校

佐田 彩音

火のもとを しっかりかくにん その気持ち

笠田小学校

土井 絢矢

気のゆるみ 二度ともどらぬ 宝物

妙寺小学校

岡本 あおい

消したつけ 消していないと 夢消える

洪田小学校

東岡 比有真

普段から 消火器ある場所 見ときましょ

河根小学校

柘井 里桜

外での火 ちゃんと消すまで かえらない

高野口小学校

松下 莉久

そのタバコ どこにするか 考えて

妙寺小学校

武田 唯

火のしまつ 油断大敵 見直しを

信太小学校

守内 美月

(敬称略)

救急車同乗研修



加山由梨 医師



澤田麻友子 看護師



米田裕香 看護師



室谷夕子 医療技師



浅田有美子 看護師



浦部千草 看護師



森本衣里 看護師



富阪 彩 医療技師



阿瀬裕太 医療技師

平成25年度も紀北分院の職員9名(医師・研修医師・看護師・医療技師)の方々に、一日救急隊員として救急車に同乗していただき、医療機関とのネットワークの充実、医療関係者とのコミュニケーションを深めることで、より一層住民サービスの向上に繋がると考えています。

職場体験&防火パレード





「六文銭の誓い」
堀 隼夫



「光と言う名の希望」
辻本 雅洋

発表では、東日本大震災に和歌山県緊急消防援助隊として出動した経験から、大災害では、消防にも限界があり、住民一人一人の力が必要であると感じ、時間の経過と共に危機感が薄れないよう、当消防管内にゆかりのある真田幸村の旗印「六文銭」を六つの心構えに置き換え、防災に真剣に取り組んでもらい、家族や大切な人を守りたいと訴え、優秀賞を受賞しました。

発表では、夏の夜空に天野の里を照らすホタルのひかりにちなみ、地域防災の活動として「チームひかり」を発足させ、災害に強い地域を作ることにより里は輝くと訴え、最優秀賞を受賞し、平成26年4月に京都市で行われる東近畿大会へ出場する予定です。

また、平成25年4月には、堀消防士が和歌山県の代表(前年最優秀賞)として、東近畿大会に出場しました。



平成25年10月に開催された和歌山県消防職員意見発表会に当消防本部の代表として、かつらぎ町天野在住の辻本消防士が参加しました。



平成25年11月22日に御坊市で開催された第15回和歌山県消防職員駅伝大会において、当消防本部の選抜出場チームが24チーム中3位入賞を果たしました。

また、堀消防士については、区間賞を受賞し、参加選手の中でも1位のタイムを記録しました。

一区 岡 昭宏
二区 林 晃史
三区 松浦 巧
四区 堀 隼夫



消防職員駅伝大会

消防救助技術大会

日夜あらゆる災害から地域住民の命を守るため、隊員の知識や技術を相互交換することにより、更なる高度な救助技術の錬磨、強靱な体力と精神力を養成することなどを目的として第42回消防救助技術大会が開催されました。

当消防本部からは、和歌山県大会に8名が参加し、ロープブリッジ救出は東近畿大会へ、ロープ応用登はんは、全国大会(広島県)に出場し、優秀な成績を収めました。



(門 誠) (山本 健之)

- 【ロープ応用登はんチーム】
門 誠 (県1位)
山本 健之
- 【ロープブリッジ救出チーム】
堀 隼夫 (県1位)
岡 昭宏
辻本 雅洋
南方 邦宏
- 【ロープ渡過】
松浦 巧
- 【はしご登はん】
東 大智



甲種防火管理新規講習会開催案内

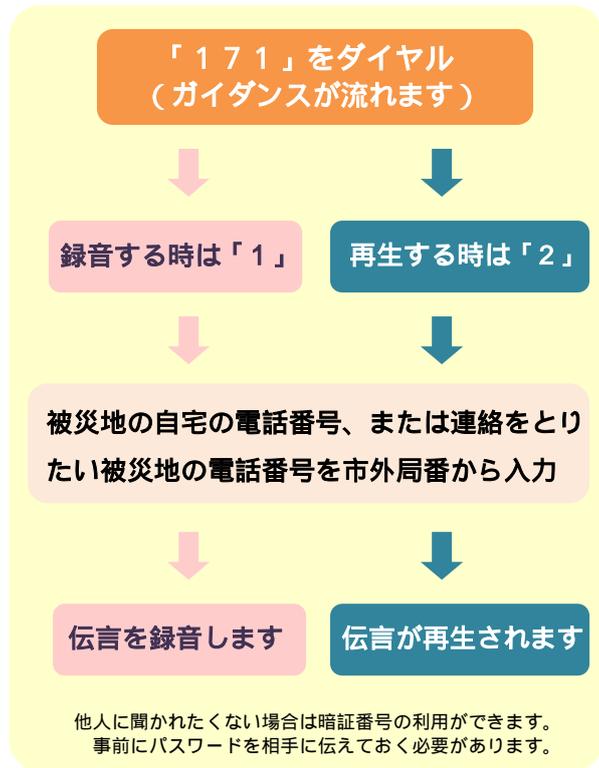
日本防火協会主催で「甲種防火管理新規講習会」を次の日程で2日間に渡り、管内において開催する予定です。

詳しくは、伊都消防組合消防本部予防課までお問い合わせ下さい。

- 【日程】平成26年6月26日(木)～27日(金)
- 【問い合わせ先】0736(22)0119



災害時の安否確認に災害用伝言サービス



災害用伝言
ダイヤル171

被災地の方が171をダイヤルすると、自宅の電話番号宛に伝言を録音し、全国から再生することができます。

災害用伝言サービスの体験利用
災害用伝言サービスは、災害発生時に提供されるものですが、以下の体験日は体験利用ができます。
毎月1日、15日
正月三が日
防災とボランティア週間
(1月15日～21日)
防災週間
(8月30日～9月5日)

大規模な地震が発生したときには、通信が混雑します。震災時には、被災地への電話が集中し長時間つながりにくくなりました。こうした通信の混雑の際には、「災害用伝言サービス」を利用すると、家族や知人の安否確認や、避難場所の連絡等がスムーズに行えます。

災害用伝言板の使い方

登録方法

災害用伝言板

被災地の方が携帯電話・PHSの機能を使い、伝言を登録し、携帯電話・PHSの番号をもとに全国の携帯電話・PHS・パソコンから伝言を確認できます。

確認方法

災害用伝言板

スマートフォンでは、専用のアプリケーションのダウンロードが必要な場合があります。詳しくは、各社の「災害用伝言板」の案内ページをご確認ください。